



マチノワラボ VOL. 1 実施報告 「社会的連帯経済ってなんだ！？—フランスから学ぶ—」

1 マチノワラボとは

東日本大震災、少子高齢化、貧困、ソーシャルビジネス、新たな地域経営。社会の課題は複雑化し、課題解決の担い手は多彩さを増しています。そうした現状の理解を深め、先進事例から学び、持続的な地域づくりを考える未来志向の場です。参加する人同士の対話を通して、仙台や東北そして社会の課題にアプローチする場として連続開催します。

2 開催概要

開催日：2017年5月11日（木）16:00～18:00

場 所：仙台市市民活動サポートセンター 地下市民活動シアター

ゲスト：熊本学園大学社会福祉学部福祉環境学科 教授 花田昌宣さん

大阪市立大学経済学部経済学研究科 教授 福原宏幸さん

主 催：仙台市市民活動サポートセンター・一般社団法人パーソナルサポートセンター

共 催：NPO 法人都市デザインワークス・NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター

3 内容

フランスで法制化が進んでいる社会的連帯経済について、ゲストのフランス視察の報告を含め、全体像と事例を中心に紹介。参加者との意見交換を行いました。

○花田さんの話題提供「フランスにおける社会連帯経済の制度と実際」

社会的連帯経済は、市場経済でもなく、国家・公共経済でもない、新しい経済です。3つの原則として、社会的目的（雇用・労働・失業対策）があること、ガバナンスが民主的で参加型であること、非営利による資本管理・分割不可能な資産の原則があります。

花田さんは社会福祉法人を運営し、障害者の雇用創出に取り組んでいます。「日本には社会的企業がすでに多くあります。個々の活動のみでは社会的な課題を解消することは困難で、雇用を生み出しながら地域に定着させるために必要な仕組みを、フランスから学ぶことができます。」と話しました。

○福原さんの話題提供「リアル都市圏における社会的連帯経済—その展開と事例—」

地産地消型の有機野菜を使った市民カフェを共同組合として開設した事例や、公害や駐車スペースの限界という課題に対応したカーシェアリング事業、時間通貨の考えなどを紹介。社会的連帯経済を支える中間支援機関（行政・当事者団体・地方議員など多様な主体）の存在、資金調達の仕組み、認証システムなどについても説明しました。

福原さんは、「社会課題を福祉部局だけではなく経済部局も担当し、社会的困難に対して経済施策化する新しい経済構築が大事。日本ではソーシャルイノベーションの流れがありますが、責任ある消費者として市民の普段の行為から変革を起す手法があることを参考にしてほしい。」と話しました。



会場の様子



花田昌宣さん



福原宏幸さん



会場との意見交換の様子

○会場との意見交換

- ・新しい仕組みを復興に活かすためにはどうしたらいいか。(福島県復興支援団体)
- フランスでは対話や議論の場が頻繁に持たれる、多様な主体による自由な議論の場が必要。
- ・日本では労働者が作る協同組合が法制化されていない。(行政職員)
- フランスでは古くから職人組合があり、その流れで生産者組合ができた歴史的経緯がある。実は社会的連帯経済は一種の認証システムであるが、認証の条件は定款への明記と実態把握。社会的連帯経済の効果は現在検証中。
- ・新しい動きが東日本から発生してほしい。
- ・社会的連帯経済は可能性を秘めた新しい仕組みなので、そのままでも日本で取り入れる方法はあるのではないか。

○アンケートの意見

- ・新たな就業支援について参考になった。
- ・自助→共助→公助の順ではなく、公助が一番優先されるべきという言葉に共感した。
- ・今の日本に欠けている考え方。個人も企業の論理から抜け出していない。
- ・できていることは沢山あり、それを持続した雇用につなげる考えが重要というのが一番の学び。
- ・復興＝新しい社会システムで地域を創っていくという取り組みを広げていくこと。
- ・社会的事業は日本にも多くある。目標・目的を明確に持つことが大事。地域で生きづらさや不自由を抱えている人たちやその家族が集まり話せる場づくりが必要。